３　他校種における授業づくりの現状・研修を振り返って

理科の授業力向上研修は、今年度から中高合同となった。昨年度までは小中が合同、高校は単独で行われていた。人数の関係に加え、中高の連携の課題も依然としてあることも要因となっている。小中では、仮説の設定や考察を伴う実験を中心とした授業を繰り返している。今後はより一層小中との連携を密にしていかなければならない。その点で、今回の研修では、互いの実情や課題を共有することができ、大変有意義なものとなった。

Ⅲ　おわりに

研修のなかのプレゼンテーションで他校教諭が「理科好きが理科嫌いをつくらない」と述べたことが大変印象的だった。授業の在り方や動機付けの工夫にばかり気をとられ、自身が「理科好き」でいると言えるだろうかと不安になった。まずは原点に返り、自身が科目の魅力を感じ、表現できるようで在りたい。

また、初任研では、「生徒を最優先すること、生徒や保護者との信頼関係、すべての生徒への配慮と支援、居場所づくり」など、教員として大切にしていきたいことを確立することができた。その際、実行のためには、授業力、専門性を高めることが不可欠であると述べた。二年間少しずつ変わりながら、身につけながらも、依然、力量不足、要領の悪さから、目の前の生徒や毎日の授業、部活動に向き合っていくことで精一杯の毎日だったように感じる。そんな日々の中で、じっくり一つの授業に向き合い、同期や先輩方と演習・協議し、非常に多くのことを学ばせていただいた研修だった。まだ改善しきれない課題や新たに気づくことができた課題を解決することで、今後も進路保障し、自身の軸を確かに実行し続けるためにも、教材研究、入試問題の研究や科学に関する情報収集を継続していきたい。

今回の研修を終えることができたのも、研修にあたりお世話になった本校理科の先生方、秋田県総合教育センター藤原健指導主事、普段の校務でお世話になっている職員の皆様のおかげです。心よりお礼申し上げます。